

連携室だより

# 鹿児島医セン

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

2019.4 vol.156

鹿児島医療センター

## 第3回 地域緩和ケア連携 研修会開催報告

当院では、本年度から地域の医療や介護に従事する皆様と医療提供体制や社会的支援のあり方・緩和ケア・緊急時の体制について情報を共有し、役割分担等議論する場を設けるため研修会を企画しています。

平成31年2月28日(木)に開催した第3回研修会では、「事例を通して連携を考える」というテーマで、訪問看護ステーションこもれ陽センター長梅田香代先生より「訪問看護としての連携を考える」、ひさまつクリニック医療ソーシャルワーカー主任岩元香菜子先生より「事例を通して連携を考える」、訪問看護ステーションゆあ看護師高橋明美先生より「ターミナルの看護を通して連携を考える」というテーマでご講演いただきました。

今回の研修には地域の在宅医・訪問看護師・医療ソーシャルワーカー・ケアマネジャー・理学療法士等81名の方が参加して下さいました。講演後のディスカッションでは、在宅スタッフと、もっとより良い連携を図るにはどうすれば良いか話し合い、多数のご意見をいただくことが出来ました。また事後のアンケートでは「自宅退院後の支援の実際を学ぶことが出来た。」「とても分かりやすかった。」という感想もいただきました。今回いただいたご意見を元に、地域との連携をさらに深めていきたいと考えています。

次年度の研修会は6月ごろに開催予定です。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

(文責:看護師 森 鶴代)



# 第6回 鹿児島医療センター院内学会

第6回院内学会が平成31年3月9日土曜日の午前中に開催されました。院内学会の目的は病院内の各部署で行われている研究の一端を知ること、職員の相互理解を深め臨床研究を推進することです。



今年度は演題が13題発表されました。質疑応答では、質問時間をオーバーするほど白熱した意見交換があり、あっという間の3時間でした。発表後、評価者（院長、副院長、統括診療部長、臨床研究部長、事務部長、看護部長、各群座長）によって厳正な点数評価がなされ、第1位：放射線科 前嶋正徳さん、第2位：臨床研究部（臨床検査科）梅橋功征さん、第3位：薬剤部 松尾圭祐さん、特別賞：西3階病棟 豎山仁美さんが選出され、3月14日に行われた合同送別会で表彰が行われました。院内学会に対するアンケートでは「各職種で行う学会はとても意義があると思いました。」「院内でどのような研究や取り組みがなされているのかを知る機会となりました。」「参加者がもう少し多ければよいのではないかと思います。」等の意見がありました。

職員の皆様からのご意見をもとに、職種間の相互理解が深まり、さらなる医療の質の向上に貢献できるよう学会運営に努めていきたいと考えております。この院内学会が当院の定期的な催しの中で、なくてはならない春の風物詩になってくれることを期待しています。来年も盛大な院内学会を開催したいと思います。職員の皆様の積極的な参加をお願いいたします。

（文責：臨床研究部長 城ヶ崎 倫久／教育担当師長 松本 深雪）

## 院内学会プログラム

### I群 座長：婦人科 鮫島 浩

- |  |                    |        |
|--|--------------------|--------|
| 1. たこつぼ型心筋症は予後良好？  | 第1循環器内科            | 和田 華菜子 |
| 2. 急性骨髄性白血病患者の化学療法中の急性肺障害に対して長期のHFNCで管理した一症例   | 呼吸サポート<br>チーム（RST） | 喜山 敏志  |
| 3. Simvastatinは血管内皮細胞にてInterleukin-33により誘導されたMonocyte Chemoattractant Protein-1を抑制する | 臨床研究部              | 梅橋 功征  |
| 4. 抗血栓薬使用患者に対する緊急腹腔鏡下胆嚢摘出術の検討  | 外科                 | 本高 浩徐  |

### II群 座長：副臨床検査技師長 船瀬 将一 / 副臨床工学技士長 宮之下 誠

- |                                  |       |       |
|----------------------------------|-------|-------|
| 5. 総頸動脈拡張期血流速度による大動脈弁閉鎖不全症の重症度評価 | 臨床検査科 | 時吉 恵美 |
| 6. 外来がん患者に対する薬剤師外来業務の導入と現状       | 薬剤部   | 松尾 圭祐 |
| 7. Adamkiewicz 動脈同定における撮像方法の検討   | 放射線科  | 前嶋 正徳 |
| 8. 当院の急性腎障害に対する持続的腎代替療法導入の現状     | 臨床工学室 | 溝口 将平 |
| 9. 新たな食欲不振への取り組み～たんぼぼ軟菜バージョン～    | 栄養管理室 | 吉田 有希 |

### III群 座長：企画課長 伊藤 淳司 / 副看護師長 大久保 沙織

- |  |          |       |
|--|----------|-------|
| 10. 頭頸部がん患者にかかわる看護師のやりがい                   | 西3階病棟    | 豎山 仁美 |
| 11. 心不全患者の退院後の生活の実態調査～コントロール良好な患者・家族の事例より～ | 東6階病棟    | 西 明日香 |
| 12. 看護補助者の研修の評価と今後の課題                      | 副看護師長研究会 | 井手 智子 |
| 13. 「全館計画停電」を実施して～問題点と今後の課題～               | 事務部企画課   | 海崎 健也 |

# 平成30年度 QC活動発表会を終えて

平成30年度のQC活動発表会は、2月18日、3月1日の2日間で行われ、院内の17部署が各テーマの活動と成果について発表を行いました。平成30年度のQC活動は、「QC啓蒙活動に継続的に取り組む」をキャッチフレーズに、外部講師を招いた講義を開催し、スタートしました。講義は参加型であり、QC活動の基礎知識を楽しく学ぶことができました。その後、各部署はQCテーマ選定を行い、9月にそのテーマを皆の前で宣言するキックオフ大会を経て、それぞれのチームで活動しました。

QC活動発表会では、環境整備や、業務の効率化、医療サービスの向上に繋げるなど、テーマは様々で、各部署さまざまな興味深い取り組みの発表があり、質問も出ていました。また、発表の後は厳正なる審査をいただき順位が決定されました。特に発表内容が優秀な部門は、病院より表彰を受けました。今年度は1位:薬剤科「薬剤師の仕事を知ってもらい隊!」、2位:東8階「汚物室の環境整備や感染予防に適した尿器の設置」、3位:放射線科「放射線技師による術前訪問運用に向けて」となりました。今後は国立病院機構QC活動奨励表彰に提出し、さらに病院全体でQC活動が活性化することを期待しています。

(文責:医療サービス向上委員会QC活動啓発チーム 田原 えり奈)



# 大型クルーズ船 事故対応訓練

先ほどスマホにEMIS(広域災害救急医療情報システム)からの通達があり、何気にチェックしてみた。錦江湾内で豪華客船飛鳥IIが船内火災を起こし機関故障に陥り航行不能、船内乗客乗員に多数の負傷者が出ている模様との内容だった。病院長の判断のもと、当院DMATチームが救護支援に緊急に派遣された。メンバーは田中 秀樹(医師)、木之下 誠(看護師)、野呂 俊幸(看護師)、松尾 圭祐(薬剤師兼ロジスティック)、永光 華奈(薬剤師兼ロジスティック)、佐伯 勇輔(事務兼ロジスティック)の6人。至急身支度と救護資材を整えて当院Dr.-carにて現場のマリンポートに到着。車を降りると猛烈な冷たい海風に体が身震いした。目の前の海上にはホテルのような豪華客船が航行不能になり碇泊しており、県庁、警察、海上保安庁、消防、各病院のDMATと多職種の救護班が本部に集結していた。見上げると海保ヘリと防災ヘリによる重症者の吊り上げ救助が既に行われ、巡視艇も客船の周辺を安全確保のため航行していた。DMAT本部に我々の到着を報告し、登録を行った。本部はそのチームの構成員、人数、持参している医療資材やDr.-car使用の不可などを参考に、そのチームへの遂行任務を決定する。現場では勝手な行動は許されない。現場での基本はCSCA後のTTTである。つまりCommand(指揮)and Control(統制)を確立、Safety(安全)が担保されている、Communication(情報伝達)可能なトランシーバーやスマホなどの機器が使用可能である、現場のAssessment(評価)が正確になされているといった状況のもとに、はじめてT(トリアージ)、Treatment(治療)、Transport(搬送)の作業を組織的に行う。我が医療センターチームに与えられた任務は客船4階のクラブホールに待機している負傷者の医療支援だった。タグボートにて事故客船に海上から乗り込み、4階のホールに到着。会場には130人の乗客が救助を待っていた。消防による第一トリアージは既に済んでおり、大半は緑にトリアージされていた。外国人乗客には通訳が2人で対応していた。現場のコントローラーから我々のチームに2人の黄トリアージ乗客の2次トリアージと治療と搬送を依頼された。一人目の負傷者は20歳の女性。火災現場近くで数分煙に巻かれたが、何とか救出されたという。耳鳴りと嘔吐を繰り返し、意識はあるが何となく体が重いと訴えていた。バイタルは良好。視診、触診、聴診でも有意所見はなかった。しかし、一酸化中毒の可能性が高いと判断し、トリアージを赤に変更して優先的に早急な船外への移送と酸素吸入を行った。搬送施設は念のため高圧酸素療法対応施設が望ましいことも伝達した。二人目は40歳の女性。意識は声明であるがぐったりとしていた。右腕は包帯がすでにまかれていたが、活動性の出血が持続していた。右腕を動かすとかなり痛がる。本人に受傷状況を聞くと、避難の際の混乱で将棋倒しになり、右腕をデッキに強くぶつけたとのこと。その後右腕に激しい疼痛とともに出血。自分で用手的に出血部位を圧迫して止血しようとしたら、硬い白いものが腕から出ていたとの情報を得た。開放骨折並びに上腕動脈損傷の可能性があると判断。より中枢側で強い圧迫をほどこし、低分子デキストランの急速点滴を指示。トリアージを赤に変更し、優先的な船外移送をおこなった。傷病者の第二トリアージと治療介入、その後の搬送までチーム6人で協力して行った。階段での担架での負傷者搬送はバランスをとるのが非常に難しかった。また、ようやく客船外への搬出口に到着したが、タグボートでの往復搬出のため、非常に船外搬出まで時間を要し、海上災害の救助の困難さを痛感した。最後にDMATの活動の前提として現場での安全が確保されていることが条件であり、自衛隊、警察、海上保安庁、消防などの協力なしには災害医療は成り立たない事も改めて認識させられた。以上が平成30年3月13日に鹿児島県が主催した大型クルーズ船事故対応訓練に参加させていただいた際の体験と学びです。今後も訓練やセミナーに参加し、地域の災害に当チームが積極的に貢献できるようにチーム6人で協力しながら自己研鑽していくことを再確認しました。

(文責：救急科部長 田中 秀樹)





## 卒業証書授与式を終えて

平成31年3月5日に卒業証書授与式が行われ、田中康博学校長より3年生82名に卒業証書が授与されました。卒業証書を手にし、また、多くの方々からお祝いの言葉をいただくことで、3年間の学校生活での思い出が蘇ってきたと同時に、今後への意欲を高めることができました。

3年間の学校生活を振り返ると、仲間と切磋琢磨し、協力しながら学習や実習、学校行事と様々なことに励んできた日々が思い出されます。

臨地実習では、多くの患者さんに接し、患者さんを尊重するとは、寄り添うとは何かを考え看護を行うことの大切さについて学ぶことができました。

そして、看護研究発表会や学校祭などの学校行事においては、仲間や後輩と協力しながら、たくさんの思い出を作ると共に、看護学生として多くのことを学ぶことができました。

私たちはこの3年間、たくさんの方々を支えられながら過ごしてきました。4月からは、就職や進学とそれぞれの道に進んでいきます。看護専門職者として謙虚な姿勢を大事にしながら、この3年間で学んだことを胸に、日々レベルアップしていけるよう努力し続けていきたいと思えます。

(文責：卒業生代表 堂園 亜諭美)



# 診療科紹介

## — 眼科 —

大井 城一郎



当科は2018年4月に開設され、同年5月より常勤医師1名、視能訓練士(ORT)1名、専属看護師1名の3人体制で診療を開始致しました。

外来診療日は週4日(月、火、木、金)の午前・午後で、ドライアイ、結膜炎、白内障、緑内障、糖尿病網膜症、ぶどう膜炎などさまざまな眼疾患の診療を行っております。

当院の特性上、全身疾患を合併している方が多く、必要に応じて他科との連携を取っております。

検査内容ですが、視力や眼圧以外に、視野検査(静的・動的)、眼底カメラ(蛍光眼底造影検査も可能)、網膜光干渉断層計(OCT)、超音波検査などの検査が可能です。

眼鏡処方が可能です。コンタクトレンズ処方は行っておりません。

治療機器としては、マルチカラーレーザーとYAGレーザーがあり、糖尿病網膜症や網膜裂孔に対する網膜光凝固術、原発閉塞隅角症に対する虹彩光凝固術、後発白内障に対する後発白内障手術などが可能です。

当院では電子カルテを採用しておりますが、眼科独自の電子カルテシステムを併用することで診療業務の効率化が図られ、眼底写真などの画像データを用いた患者様への説明にも役立っております。

なお現在当科では白内障や緑内障、網膜疾患などに対する眼科手術や、加齢黄斑変性などに対する抗VEGF薬の硝子体注射は行っておりません。

手術加療が必要な方、より専門性の高い診療が必要な症例に対しては、鹿児島大学病院眼科をはじめとした関連施設に紹介致します。

皆様方のお役に少しでも立てるよう微力ながら日々精進してまいりたいと思いますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

### ■お問い合わせ先

独立行政法人  
国立病院機構

## 鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域連携】 蘭田・丹後田・西辻・吉永・迫田・中田・椎原・吉留・櫻木・田辺・山之内・山口

【がん相談】 松崎・森・水元・原田・久保・杉本・児玉

地域連携室専用 FAX▶099(223)1177

※休日・時間外は当直者で対応します。

